

大学の世界展開力強化事業
(平成27年度採択)
平成28年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会
平成28年9月6日(火)
独立行政法人 日本学術振興会

■フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップ活動を行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業公募要領（抜粋）】

2. 本プログラムの概要

(8) 事業の評価等

毎年度ごとのフォローアップ活動（後述の「中間評価」実施年度は除く。）に加え、補助期間開始から3年目の平成29年度に中間評価、補助期間終了後（補助期間開始から6年目の平成32年度）に事後評価を実施する予定です。これらのフォローアップ活動及び中間評価の結果は、翌年度の補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合は、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。これらの評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

■ スケジュール

- ・平成28年5月10日
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成28年6月8日～6月10日
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成28年9月6日
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成28年9月
フォローアップ結果の公表

■フォローアップの総括

平成27年度に採択された11件の事業について、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成27年度実績(派遣・受入の学生数)等のフォローアップを行った。

各事業の取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれの事業の目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、平成28年度(採択2年目)からの本格的な学生交流に向けて、短期の交流プログラムを実施し、次年度以降の長期の交流に繋げる例が報告されている。一方で、海外の情勢不安や新たな課題も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生数の実績を見ると、採択初年度で実質的な事業実施期間が短かったこともあり、単位取得を伴う受入学生数がやや少ないものの、全体としては派遣・受入いずれも目標を上回っている。

今後も、本プログラムの趣旨に則り、各事業が更に充実し、成果を挙げられることを期待する。

1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択)平成28年度フォローアップ調査票」(以下、調査票とする)による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの内容
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

①交流プログラムの内容

(主たる交流先・中南米:筑波大学)

平成27年度は、双方向の短期研修による交流の実施と同時に、次年度以降の本格実施に向けた運営体制の整備構築を中心に事業を展開した。

運営体制の構築について、具体的には、プログラム実施委員会の立ち上げ、運営スタッフの新規雇用、海外交流校との調整、協働教育科目の精選、協定校との共同運営委員会の組織化などである。大学院を含めた全学を対象とし、提携5大学との連携に基づく複合的なプログラムの円滑な実施に向けた学内外との精力的な調整と協力体制の整備により、次年度以降の事業実施に向けた環境が構築できたと考えられる。

(主たる交流先・中南米:東京農業大学)

本事業が目指す中南米で活躍できる人材を育成する派遣・受入プログラムとして組み込んだ5大要素(①専門科目受講、②現地語研修、③現地学生との交流、④農学系インターンシップ、⑤農業・農学関連施設見学)を盛り込むことができた。特に、④農学系インターンシップ実施は、派遣プログラムでは海外支部校友会及び関係者の調整と受入先引受(ブラジル・トメアスー農協、ペルー・カムカム協会、メキシコ鈴木農場)において、受入プログラムでは大学発学生ベンチャー企業(株)メルカード東京農大、地域連携協定締結自治体の長野県長和町において、実学的な取組目標を達成した。

(主たる交流先・トルコ:東京藝術大学)

平成27年度は、トルコ国内での度重なるテロ発生をはじめ中東地域の治安が著しく悪化した為、交換留学の2名を除いて日本人学生の派遣プログラムを実施することはできなかった。一方で、連携大学の外国人学生については、交換留学1名、ショートプログラム12名と、計画人数を上回る合計13名を受け入れ、連携大学の教員招聘等とあわせ多様な交流活動を実施した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

(主たる交流先・中南米：○山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)

学生の短期派遣に関しては、参画機関から応募のあった28名の中から書類選考(GPA、語学能力、志望理由)、面接試験により優秀で意欲の高い学生13名を選抜した。平成28年度の事業である短期・長期の受入れに関しても、優秀な学生を対象とするため、3か国の協定校に候補学生の推薦を依頼し、条件にあった推薦学生に対して書類選考(学業成績、英語能力、志望動機)と面接試験を実施し、決定することにした。

(主たる交流先・中南米：東京大学)

ブラジル4大学との遠隔授業の基盤構築のため、日本とブラジルの大学教員が相互の大学を訪問し、具体的な実施体制及び内容を議論し、平成28年4月より遠隔講義が開始できる体制を整えた。また、研修に参加した学生にアンケート調査を実施し、学生からの率直な意見を抽出し、アンケート結果を参考に、今後の語学研修やプログラム内容の充実を図ることとした。

(主たる交流先・トルコ：○新潟大学、福島大学)

当初計画したとおり、新潟大学－アンカラ大学間の大学間交流協定(学生交換協定を含む)を更新し、新潟大学－エーゲ大学間及び新潟大学－中東工科大学間の大学間交流協定(学生交換協定を含む)を新規に締結した。福島大学と3つのトルコ側相手大学間においても、平成28年度中の大学間交流協定締結に向けた協議が行われた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

(主たる交流先・中南米:千葉大学)

本事業は、全学型の事業として、大学本部の国際企画課、教育企画課およびグローバル・リソースが中心になって実施している。外国人学生の受入は、ISD(国際サポートデスク)の専門スタッフ4名が対応、派遣には、グローバル・リソースの4名が対応している。また、プログラムには、専任教員12名(平均各プロジェクト2名)が対応している。これにより、協定校の教員との綿密な連携が実現している。

(主たる交流先・中南米:○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部)

上智大学と南山大学で本事業の専従嘱託職員各1名を新規雇用し、事業運営のための体制を整備することができた。南山大学では日本語集中コース専従の講師を採用し、留学生に対しきめ細かな日本語教育及び指導を実施した。平成28年度に上智大学において新設する受入・派遣学生共通科目「人の移動と共生」等の準備を進め、多様な背景をもつ学生が共に学び合うプラットフォームを形成し、学生同士の継続的な交流を促進する仕組みを構築した。

(主たる交流先・トルコ:○東京大学、東京工業大学)

受入については、受入学生の在籍管理、事業コーディネーターらによる航空券・宿舎の手配、保険加入など、当初の計画に沿った受入環境の整備が実現している。また、受入学生の宿舎として大学寮のみならず、民間宿舎を大学が主体となって借り上げるノウハウが蓄積されつつある。派遣に関しても、航空券・宿舎の手配を大学が一括して行い、全行程に教職員が同行する等、安全管理体制を徹底している

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

(主たる交流先・中南米：○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学)

キックオフ・シンポジウムを開催し、国内外の関係者(約200名)にプログラム内容を周知した。キックオフ・シンポジウムで海外連携大学から招聘した学長等及びパネルディスカッションのパネリストから得られた知見を今後のプログラム運営に反映する。またウェブサイト「La-CEPサイト」を開設し、本プログラムの実施状況について最新の情報を提供した。

(主たる交流先・中南米：○長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校)

本プロジェクト及び大学の世界展開力強化事業を両国の大学学生等に周知・PRするため、また、インターンシップ及び海外実務訓練の受け入れ先企業を開拓・確保するため、ホームページ及びパンフレットを日・英・西の三言語で作成することに着手した。

(主たる交流先・中南米：○上智大学、南山大学、上智大学短期大学部)

本事業に関わる特設ウェブサイトとパンフレットを作成・公開し、プログラムについて情報発信を進めるとともに、プログラムの進捗と成果を迅速に公開する環境を整えることができた。平成28年3月18日のキックオフシンポジウムでは、相手大学関係者の他、インターンシップ連携企業や在京の中南米各国大使館等から幅広い参加者を得た。

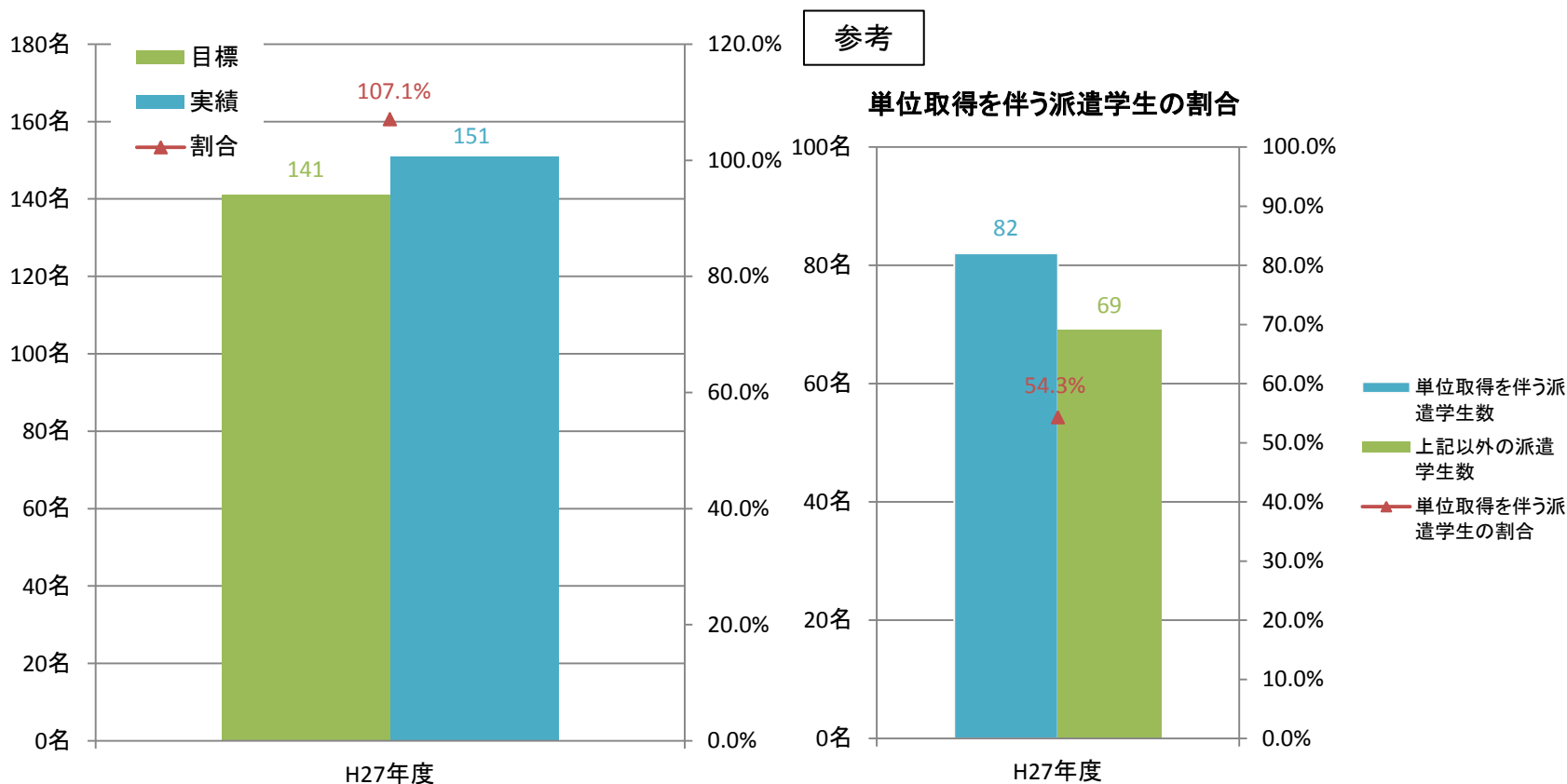
(主たる交流先・トルコ：○新潟大学、福島大学)

受入学生と本学学生の交流や受入学生による成果発表会を実施したことにより、日本人学生の英語でのコミュニケーションに対する壁が低くなり、今年度のトルコ派遣に関する留学説明会を実施した際には、農学部及び農学・防災関係を研究している大学院生のみで70名の参加があった。これは多くの学生が留学に興味を持ち始めていることを示している。

2. 交流学生数の実績(1)

(1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

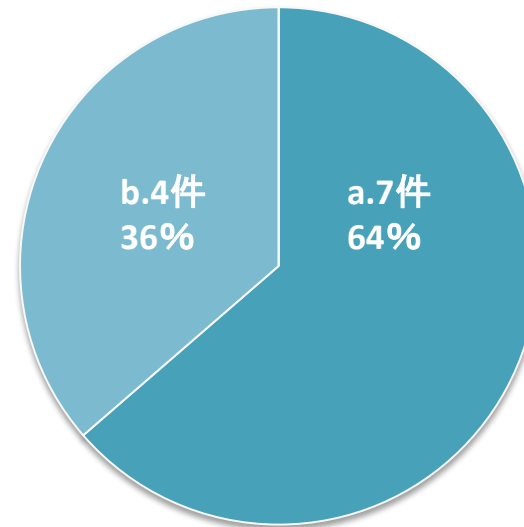
派遣実績は目標を上回った。また、単位取得を伴う派遣学生が過半数を占めた。



(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【各事業の状況(平成27年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 100%以上200%未満だった事業
- b. 100%未満だった事業



※事業ごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成27年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(主たる交流先・中南米:○長岡科学技術大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校)

平成27年度は、海外実務訓練(長期インターンシップ)として、本学学部生4名を6か月間メキシコに派遣した。また、グアナファト大学高専コースを支援するため、高専学生を16名派遣し、現地の学生と異文化交流を行った。それから、ヌエボレオン大学ツイニング・プログラム学生との交流のため、本学学生及び高専学生を8名派遣し、TA業務を行った。さらに、インターンシップ先を開拓するためメキシコ企業の調査・訪問を行った。これにより、今後、海外実務訓練と高専生インターンシップが、一層充実される見込みである。また、単位互換、ツイニング・プログラム及びダブルディグリー・プログラムの充実のため、グアナファト大学、モンテレイ大学及びヌエボレオン大学との間で教員の相互派遣を行い、調査・打合せを実施した。

【平成27年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

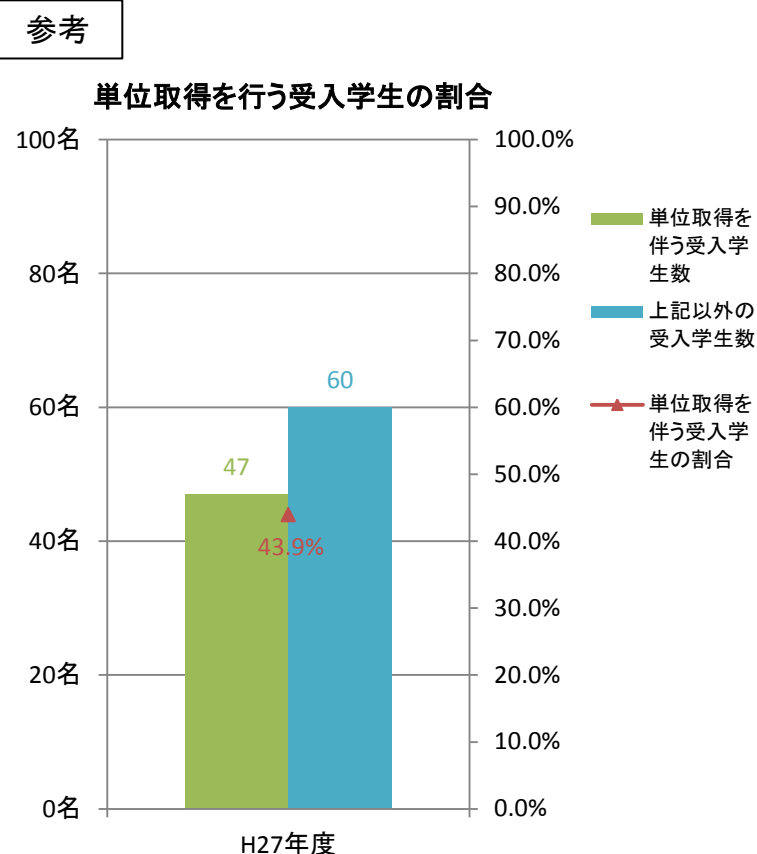
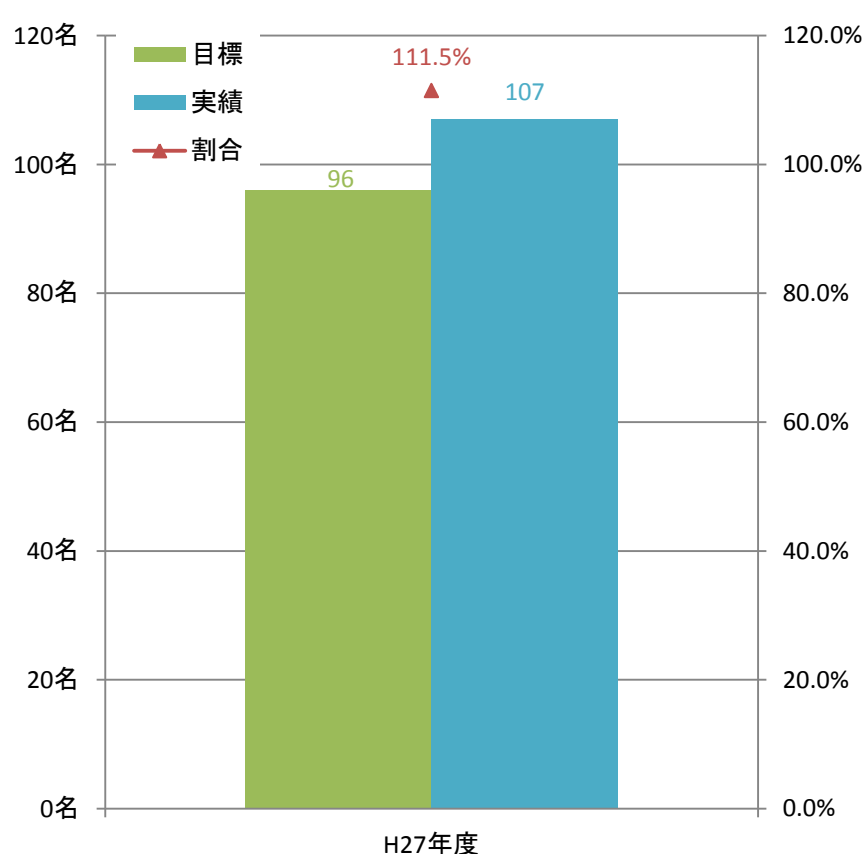
(主たる交流先・トルコ:○新潟大学、福島大学)

平成27年度は当初計画したとおり、試行的学生派遣として2名をアンカラに4週間派遣する準備を進め、派遣学生も決定していたが、アンカラやイスタンブールにおける爆破事件の発生を受け、安全面を考慮して派遣を断念した。派遣にあたっては、トルコにおける情勢の変化を早急に把握することに努め、派遣の可否に関する検討を十分に行っている。また短期派遣においては、学生の安全管理を徹底するため、教職員2名が常時同行する予定としている。さらにトルコでのテロ事件やその他の犯罪の発生に関する傾向を調べ、また英語での対応が可能な医療機関のリストを作成するとともに、他の様々なリスクに対する対応をまとめた学生派遣ハンドブックを作成し、派遣学生に配付することとしている。

2. 交流学生数の実績(2)

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

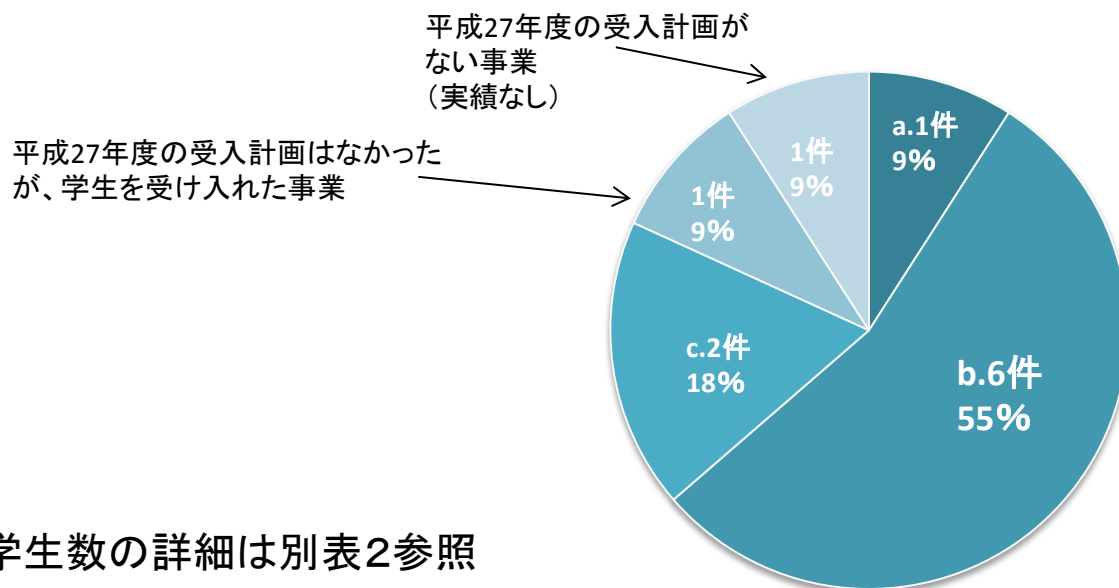
単位取得を伴う受入学生が43.9%にとどまったが、受入実績は目標を上回った。



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【各事業の状況(平成27年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だった事業
- b. 100%以上200%未満だった事業
- c. 100%未満だった事業



※事業ごとの受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

【平成27年度の達成目標に対し実績が上回っている事業】

(主たる交流先・中南米:筑波大学)

平成27年度では、短期受入プログラムとして、平成28年2月から3月にかけて、日本語・日本文化研修、研究学園都市を中心としたサイエンス分野へのフィールドワークおよび各受入学生の研究テーマに沿った専門分野に特化した教育プログラムを計画し、本学日本人学生との交流を図りながら活発な受入プログラムを実施した。

また、短期研修とは別に、メキシコ大学院大学から、日本語・日本文化を既に学習している学生3名を特別研究学生として長期受入プログラムに受け入れた。

【平成27年度の達成目標に対し実績が下回っている事業】

(主たる交流先・中南米: ○山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)

平成27年度については、当初計画していた長期留学生1名をサンマルコス大学から選抜して受け入れた。正規の学生として山形大学に進学することを支援するため、個別相談体制を構築し、決め細やかに支援している。またこの学生に対してメンター教員を配置して、学生が支障なく日本の学習・生活に溶け込めるよう環境を整えた。他方で短期受け入れについては、今年度は体制の整備に時間がかかったことから、実施できなかった。しかし中間評価時までには、平成27・28年度の計画受入数を合算した人数以上を受入れる予定であり、当初計画については達成できる見込みである。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(平成27年度採択)

(単位:名)

	合計人数	達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	(内訳)														
			単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数								
			(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
			目標 (計)	実績 (計)	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
主たる交流先・ 中南米諸国	○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンデス諸国」ダブルトライアングル・プログラム	8	15	187.5	8	15	8	13	0	2	0	0	0	0	0	
	筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム	5	9	180.0	5	0	5	0	0	0	0	9	0	9	0	
	千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム	33	35	106.1	33	35	33	33	0	2	0	0	0	0	0	
	東京大学	チリ・ブラジルとの連携による理工フロンティア人材の育成	16	12	75.0	0	0	0	0	0	0	16	12	16	12	0	0
	○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム	10	12	120.0	10	9	10	9	0	0	0	3	0	3	0	0
	○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開	17	28	164.7	4	4	0	0	4	4	13	24	0	24	0	0
	○上智大学、 南山大学、 上智大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム	15	15	100.0	10	10	8	8	2	2	5	5	5	5	0	0
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業	10	10	100.0	10	9	10	9	0	0	0	1	0	1	0	0	
主たる交流先・ トルコ	○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学日土協働教育プログラム	14	13	92.9	0	0	0	0	0	0	14	13	14	13	0	0
	東京藝術大学	Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～	11	2	18.2	11	0	8	0	3	0	0	2	0	0	0	2
	○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成	2	0	0.0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
総計			141	151	107.1	91	82	82	72	9	10	50	69	37	67	0	2

別表2:プログラムごとの受入学生数(平成27年度採択)

(単位:名)

	合計人数	達成目標 に対する 実績の 割合 (%)	(内訳)														
			単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数								
			(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上				
			目標 (計)	実績 (計)	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
主たる交流先・ 中南米諸国	○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンデス諸国」ダブルトライアングル・プログラム	5	1	20.0	5	1	4	0	1	1	0	0	0	0	0	
	筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献するトランスパシフィック協働人材育成プログラム	5	10	200.0	5	0	5	0	0	0	0	10	0	7	0	3
	千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム	39	42	107.7	39	42	39	36	0	6	0	0	0	0	0	0
	東京大学	チリ・ブラジルとの連携による理工フロンティア人材の育成	0	2	-	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
	○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム	10	11	110.0	0	0	0	0	0	0	10	11	10	11	0	0
	○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	○上智大学、 南山大学、 上智大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム	4	4	100.0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業	5	4	80.0	5	0	5	0	0	0	0	4	0	4	0	0	
主たる交流先・ トルコ	○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学日土協働教育プログラム	16	17	106.3	0	0	0	0	0	0	16	17	16	17	0	0
	東京藝術大学	Global Arts Crossing ～中東地域との戦略的芸術文化外交～	10	13	130.0	10	0	9	0	1	0	0	13	0	12	0	1
	○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成	2	3	150.0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	0	0
総計			96	107	111.5	68	47	62	36	6	11	28	60	28	56	0	4